

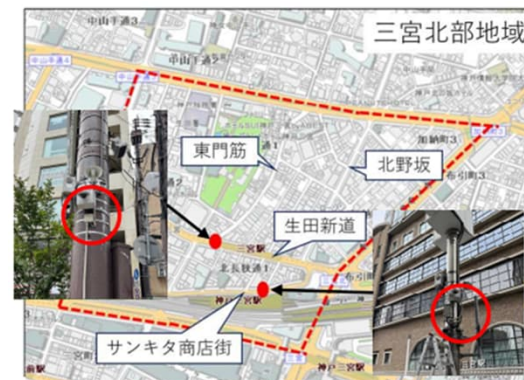
# A I 防犯カメラ実証実験（5～6月）の結果

## 実証実験の概要

- 実施期間：令和6年5月20日（月）～6月19日（水）
- 連携企業：TOA株式会社
- 設置場所：サンキタ通り商店街（東側・商店街看板）  
生田新道（北側・東門街アーチ看板）



R6.5.20設置セレモニー



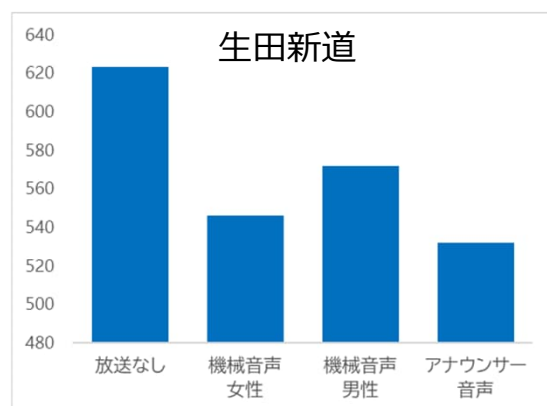
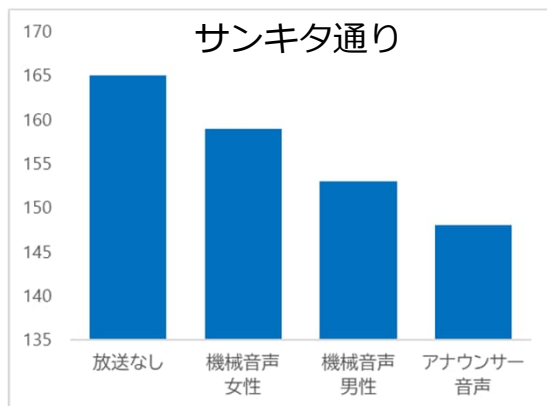
- ①撮影範囲内の滞留人数が増加した際にカメラが検知しスピーカーで注意喚起  
【複数人が1分間滞留した場合に放送、放送後滞留が1分続いた場合再度放送】
- ②客引き防止指導員のスマートフォンと連動させ、現場確認・注意喚起を迅速化  
【複数人が10分以上滞留した場合にメール送信】
- ③通行人が客引きについて行かないよう、啓発放送を実施（日本語・英語）

概ね1週間を1クールとし、様々な放送内容により実験

クール	放送内容	クール	放送内容
1 5/20～26	音声合成(女性)	3 6/3～9	放送なし
2 5/27～6/2	音声合成(男性)	4 6/10～19	アナウンス音声

## A I 防犯カメラの設置効果

- ①注意喚起放送により滞留者の検知数を10～15%程度低減



- ②A I カメラのログデータから客引きの傾向を把握

エリア	曜日	時間帯
サンキタ通り	金曜・土曜が多い	20～21時台が多い
生田新道	水曜・土曜が多い	20時、23時台が多い



客引きの傾向を踏まえて、効率的な指導や今後の対策を検討

## 実証実験を踏まえた課題等

- 同じ放送を流すだけでは効果が薄いため、各種パラメータ（放送内容、頻度、音量、話者etc）を変化させ、「見られている」と意識させる注意喚起が必要
- 通行人に向けた啓発放送は客引き行為が条例違反であることを周知する意味でも効果的
- 滞留が続いた場合の指導員へのメール通知に画像等が添付されていないため効果的な指導に活かしにくい 等